

20160527 蔵前ゼミ（通算 第 56 回）



司会の橋爪さん



講師の河野さん



会場風景（すずかけ台, J221 講義室）



ゼミ後半のパネルディスカッション



交流会（すずかけホール 3F ラウンジ）



交流会で学生と話す河野さん



交流会の司会（佐野さん）、開会挨拶（太田さん）、閉会挨拶（関口さん）

◆太田さんの挨拶：今日の河野さんの話は日本の企業にとって耳の痛い話でした。学生時代に河野さんの話を聞いた皆さんは幸せです。私は通信関係の仕事で海外展開を図っていた時に、ダイバーシティを痛感することが多々ありましたが、それらの中から2つばかり紹介します。1つは、次のようなクレームです：米国のダラスで金曜日の夕方遅くに会議をしていたのですが、Senior Vice Presidentの奥さんが「あなた今何時だと思っているの！」とご主人を呼びに来られたこと。2つ目は、日曜日にゴルフに行った時の出来事です：朝方は曇っ

ていて、今にも小雨が降りそうで心配でしたが、次第に晴れてきました。皆ゴルフ日和と喜んだのですが、一人だけ「申し訳ないが帰らせてくれ」と言いました。「こんなに天気が良くなったら、家族を連れてピクニックに行かなければ勿体ない」ということでした。◆関口さん：職場で働く期間は約40年です。この間に社会は大きく変わらぬでしょう。現在と40年前を比較してみればよく分ります。40年前といえば、このすずかけ台キャンパスに研究所が移転した頃で、電動タイプライターや関数電卓が憧れの品でした。PCや液晶カラーテレビは無く、スマートフォンが普及するとは想像もできませんでした。変革のスピードが速くなっていますので、40年後は全く見えないと言ってもいいでしょう。今ある企業や常識のみを振り所にしないで、自分に合った会社を選び、自分の手で未来を切り開いて欲しいと思います。